

意気高く 秋の取り組みをすすめてよう！！

第2回理事会(9/4)報告

テーマは 「東海第二原発の再稼働は許さない 廃炉に！！」

- ①「原発問題に関する学習会」の継続的とりくみ(9月～11月)
 - ・引き続き、原発に関連する学習や小集会にとりくむ。
 - ・人数の多い少ないにこだわらず、何度でもとりくむ。
- ②「秋の平和宣伝活動」のとりくみ(10月を中心に)
 - ・県委員会作成の「東海第二原発は廃炉に」のチラシ(B4版裏表2面)を、「手撒き」、「新聞折り込み」、「街頭配布」、「集会時配布」等にとりくむ
 - ・可能な地域は、街頭宣伝等もとりくむ。
- ③県委員会作成の原発パネル展を開催する。
- ④「東海第二原発の再稼働を許さず 廃炉に！」署名
 - ・12月議会に合わせ、知事に提出する。
 - ・県議会、東海村長、東海村議会に、請願書を提出する。
 - ・署名用紙は、各平和の会・平和委員会に再度送付します。
 - ・「茨城の原発をなくそう対策委員会」は、チラシを作成する。
- ⑤「平和広告の賛同者を募る」のとりくみ(最終締切11月末)
 - ・県委員会作成の「賛同者募集のチラシ」を使用する。

- ・目標は、個人1200口、団体130口(昨年水準)とする。
- ・掲載紙は「茨城新聞」、大きさは「紙面の半分」11月中旬に掲載する。
- ⑥「11・20茨城の原発をなくそう茨城県民集会」
 - ・場所：「県青少年会館 大研修室」(2階)
 - ・時間：午後1時から
 - ・規模：最大300人
 - ・講演「森住卓(もりずみ たかし)氏」
- ⑦「平和ワイン普及」のとりくみ(12月中)
 - ・1500円(1本) 平和ラベルを貼付して販売する。
- ⑧「日本平和大会 in 沖縄」の参加のとりくみ
 - ・11月25日(金)～27日(日)
 - ・「沖縄から全国へ広げよう 平和の流れ」をテーマに開催する。
 - ・地域からお参加者を募ります。
- ⑨「仲間づくり・組織強化」のとりくみ
 - ・「月に5人の新しい仲間を迎える」草の根の取り組みの強化。

守谷 平和の会 発行の機関紙

機関紙コンテスト入賞



手書きの深い味！

日本平和委員会第61回大会で行われた機関紙コンクールの入選作品が発表されました。平和新聞では、次のように紹介しています。

『地域版の茨城県「守谷平和の会ニュース」は、今回の応募作品のなかで唯一手書きで作られている機関紙です。4年前に筑守平和の会から、より地域に根ざした活動をしようと独立した平和委員会ですが、ついに100号を超えました。机に向かって一筆一筆丁寧にペンを走らせている姿が目にかぶようで、心が熱くなります。』

『会員のつながりを大事にして地道に積み重ねてきた活動は、平和行進で日曜にもかかわらず副市長や議長が出迎えるようになったり、市の図書館で平和パネル展を開催するなど、市民権を得て実際に街を変えつつあります。』

庶民派？ 実は、国民いじめの野田新政権

原発再稼働容認、消費税10%引き上げ、TPP推進を狙う

いろいろと物議をかもした菅首相に代わり、野田新内閣がスタートしました。テレビや新聞では「ドジョウ内閣」とか「1000円散髪」とか、「庶民派」を売り込んでいます。私たちの生活に直結する政治の中身はどうでしょうか？

政策面で見ると、「国民にとって一番問題のある、最悪の人が首相に選ばれた」と言っても過言ではありません。

日本の農業からサービス業まで、国民生活を根底から破壊するTPP(環太平洋連携協定)を積極的に推進する、原発の再稼働を容認する、沖縄の米軍基地問題でもアメリカにべったりです。

特に問題なのは、復興支援の名目での消費税の増税です。税率10%をめざし、来年3月までに、「社会保障と税の一体改革」の法案を出すと、明言しています。「高齢者が増えるので支出が増える。自己負担を増やしてサービスを削らなければならない」といい、財源は「消費税」とする法案です。

さらに住民税や国保税の増税を行ない、医療費の窓口負担も増やす、年金の支給額をさらに減らし、支給開始年齢を70歳にするなど、国民生活破壊の方針です。

「社会保障の充実」と言うのは口実で、要は、「消費税増税」と「負担額の増加」だけが目的のニセ「改革」です。これが自民・公明・民主の三党で合意した「社会保障と税の一体改革」の中身です。

国が早急にやるべきことは、震災からの復興や原発からの脱却、景気を回復するなど、国民生活を第一にすることですが、国民の願いとは全く逆の事をやろうとしています。

大企業の内部留保はリーマンショック以後も増え続け、254兆円もの高額になっています。政府が今やらなくてはならないことは、大企業と高額所得者を優遇してきた不公平税制を正すことです。軍事費や原発関連予算を削ることで、10兆円の財源がうまれてきます。増税などともありません。

前原誠司政調会長がアメリカの講演で「自衛隊とともに行動する他国の軍隊を防衛できるようにする」発言が物議をかもししていますが、憲法九条を真っ向から否定したこの発言や国民の生活無視を許さない力は、「草の根」の平和運動を担う、平和の会・平和委員会の運動を強化しなくてはなりません。



かわら版に寄せて

みとみなみ平和の会の田中日出夫さんから事務局へ宛てて、短歌をおくって頂きましたので紹介します。



かわら版 地域密着記事なので
 平和新聞より 先に読み出す
 八月が終われど 常に心せよ
 平和を守る 孫子のためにも

田中 日出夫
 (みとみなみ平和の会)

かわら版賛歌

平和新聞

2011年9月15日(木曜日) 1966号 (毎月5,15,25日発行)

1950年12月16日第三種郵便物許可 発行 日本平和委員会
 1部140円 月額400円 〒105-0014 東京都港区芝1-4-9 平和会館
 (郵送料月額120円) 電話03(3451)6377 FAX03(3451)6277

平和かわら版 平和新聞茨城版 No. 604

発行：茨城県平和委員会 〒310-0912 水戸市見川5-127-281
 Tel/Fax 029-251-2806 E-mail ibahei@amber.plala.or.jp

現地をみて、大いに学ぼう！

9月6日(火)東海見学ツアーに18名参加



水戸西平和の会

【げんでんテラパーク
玄関前に飾ってある東
海発電所で使用した、
日立製低圧タービンの
前にて】

水戸西平和の会では、6月18日の「原発を考える学習会」8月6～8日の「茨城の戦争展」につづく行事として、9月6日に、フィールドワークとして東海見学ツアーを行いました。

参加者は車に分乗し、案内役をやってくれた加藤岑生さん(茨城県原水協会会長)と、テラパーク前で合流しました。

げんでん東海テラパーク(日本原子力発電株式会社の原子力資料館)では、担当者が東海第2発電所の現況について約30分間説明し、参加者との間で質疑討論を行いました。「原子炉の耐用年数はどの位か」という質問には「60年位は大丈夫だと思っている」と答弁し、参加者を驚かせました。自然と再生可能エネルギーについては「安定的な電力供給が困難、普及するのにコストがかかり過ぎる」などの理由で消極的な見解を示しました。

このあと、原子力科学館を見学し、午後3時から、川崎篤子東海村議と懇談しました。東海村の総収入の約50%は原子力関係が占めており、中学3年までの医療費無料化、デマンドタクシー制度の確立、小1から30人学級の導入(教職員の定数増は、村単独の財政でまかなう)などが報告され、参加者は羨ましがりました。しかし、「お金だけの問題で村民の将来と等価交換はできない」と明言する村上達也村長の言葉を胸に秘め帰宅の途に尽きました。

(小川：記)



【舟石川コ
ミュニティセ
ンターにての懇
談会】

『停止中の原発再稼働はやめて！』を野田政権に求める

作家 大江健三郎氏ら声明

大江さんのほか、作家の落合恵子さん、鎌田慧さん、日本弁護士連合会の宇都宮健児会長が出席し、9月6日に東京都内で記者会見を開き、『経済活動を生命の危機より優先すべきでない』として、野田政権に停止中の原発を再稼働させないことなどを求める声明を出しました。

また、大江さんは、「事故を二度と起こさせないために、新しい法律を作るような動きを市民が起こさなければならぬ」と訴えた。

大江さんは音楽家の坂本龍一さんとともに、脱原発への政策転換を求める1千万人署名を呼びかけています。19日には東京の明治公園で、5万人規模の集会を開きます。

「九条の会かさま」では、大型バスで参加しようと企画し参加者を募っています。

JCO臨界事故を忘れない 原子力事故をくりかえさせない 2011年9.30茨城集会

日時：10月1日(土) 午後1:30～4:00

会場：東海村 石神コミュニティセンター

資料代：500円

記念講演 『FKUSHIMA からの警告』

伊東達也氏 (原発問題住民運動全国連絡センター筆頭代表委員、福島県連絡会代表委員)

報告 『巨大地震警戒、東海原発は廃炉に』

中村敏夫氏 (茨城原発を考える会会長)

報告 『JCO 臨界事故からの11年間 9.30集会が発信してきたものは？』

田村武夫氏 (茨城大学名誉教授)

主催：2011年9.30茨城集会実行委員会

実行委員長：田村武夫(茨城大学名誉教授)

[シリーズ] わが街 わか会員

鹿嶋市 / 林 佑子 さん (鹿行平和委員会)



東京の目黒区で生まれたの。3歳頃に終戦を迎えたから、戦争そのものの記憶はあまりないわね。姉たちから、空襲や避難の話をよく聞きました。

戦争との出会いは東急東横線かな。母と時々電車で遊びに出かけたの。戦争で体に傷を負った兵隊さんがね、患者用の白衣を着て電車に乗ってきたわ。もの悲しくアコーディオンを弾いて、募金箱を抱えていたのね。本当にショックだった。可哀想で可哀想でね。浮き浮きしていた気持ちも沈んだの。

もう一つは、叔父さんが「原爆の子」の作文集を送ってくれたのよ。これも衝撃だった。ほかにもあるけれど、この二つが私の子ども心に、平和の大切さを育ててくれたルーツだと思うの。本当にそう思うわ。

鹿嶋市には20年ほど前に来たのね。なぜって？ 亡くなった母が田舎の生活に憧れててね、付き添って移住したのよ。母は亡くなったけど、すてきな友人がたくさんできたわ。戦争にあう事なく60年過ぎたの。いま幸せな人生を送っているわよ。これからも平和運動を死ぬまで頑張りま〜す。(談)

映画上映会のお知らせ

鎌仲ひとみ監督作品

『ミツバチの羽音と地球の回転』

10月2日(日)

れあいの里 石岡ひまわりの館ホール

<鑑賞券> 大人1,000円、小中高生500円

昼の部：午後2時上映(1時30分開場)

夜の部：午後6時30分上映(6時開場)

未来のエネルギーをどうするのか？

瀬戸内海祝島とスエーデンで

エネルギーの自立に取り組む人々の物語

問合せ先：杉本(0299-22-6245)、高栖(0299-22-4856)他